

いかなる理由があろうと許されないテロ行為 民間人虐殺の蛮行を糾弾する！

イラクでついに、「邦人人質」が惨殺されるとい痛ましい事件が起こりました。何の罪もない民間人を拘束し、「要求」が通らないといって殺害する武装集団の非道・卑劣な行為を絶対許すことはできません。

日本政府の責任も重大

「危ない所へ行くのが悪い、自業自得だ」という声も聞かれますが、果たしてそれでしようか。

罪もない市民を標的にし攻撃することがテロだとなれば、国連も認めない無法な侵略戦争と軍事占領をおこなない、数万人に及ぶイラクの市民を殺戮しているアメリカ・ブッシュ政権こそ、最大・最悪の「テロリスト集団」ではないでしょうか。

そして、そのアメリカに無批判に追従し、米軍を支援している自衛隊の撤退をあくまで拒否する小泉内閣の責任は重大です。サマワの自衛隊宿営地にも攻撃が開始されました。自衛隊の派兵がなければ、日本も日本人も標的にされることはなかったのです。

自衛隊はイラクから撤退せよ！

自衛隊のイラク派遣の期限切れは12月14日。米政府調査団の最終報告(10月6日)でも、イラク戦争に「大義」がなかったことが明らかになり、派兵国が次々撤兵しているのに、小泉内閣は憲法違反の自衛隊派遣を継続しようとしています。

「テロも戦争・占領もやめよ、暴力の連鎖を断ち切ろう」、「殺す前に、殺される前に、自衛隊を撤退させよう！」「この声をいまこそいっそう大きくしようではありませんか。」



「イラク派兵継続反対」63%

(「賛成」は25%)

10月26日付「朝日」世論調査。

「イラク戦争を支持したのは正しい」という小泉首相の発言についても「納得できない」が67%、(「納得できる」はわずか18%)。

内閣支持率も9月の45%から38%に。

